

コケ散歩誌

コケを観察する上で、何を知っているかと楽しく観察できるのか、より楽しくコケ観察が出来るのか、コケの本などからの情報を少しかみ砕いて紹介していく。

第1回目のテーマは、「コケとは、どんな植物？」

簡単に言うと、花が咲かない、維管束（いかんそく）を持たない陸上の植物、と言うことになる。維管束とは？ 多分、小学校の理科の授業で習っていると思うが、通常、我々が見ている花を咲かせる植物や樹木は、根から茎を通し枝葉に水分と栄養分を吸い上げ送っている。この水分を送るために茎の中に細い管がある。この管のことを維管束と言う。この維管束、コケにはない。また、コケには水を吸い上げる根もない。それらのことがあって、コケは一般の植物のように大きくなることが出来ない。ただ、最近の研究では、一般の植物では茎を大きくするように働く遺伝子を、コケは逆に大きくならないように使って、茎が伸びないようにし、葉と葉の間隔を狭くして、毛細管現象を利用して、茎の外から水を効率よく吸い上げることが分かっている。コケ一本一本は細く立ち上がるにはひ弱だ。そこで多くの仲間が寄り添う（群落）ことよって、わずかに立ち上がったコケも倒れることはない。これは、米や麦畑が互いに寄り添い、風になびいても倒れない姿を想像すると分かるだろう。寄り添うことよってコケの茎同士



が近くなり毛細管現象も効率を増す。この辺が水分を効率よく取り組むシステムなのだ。コケの水分補給は、毛細管現象だけではない。大気中の水蒸気を茎や葉から直接吸収している。一般の草花や樹木の葉は、葉から水分が蒸発しないようにコーティングされている。直接水分を吸収することは出来ないときれている。コケは葉から水分を吸収できる利点もあるが、逆に乾燥すると葉から水分が逃げていく欠点もある。それを防止するために、コケの葉は、縮れたり、茎に葉をより添わせたりして、少しでも水分を逃がさない策を取る。群落も逃がさない策だ。しばらく水分補給がなくても、枯れたような仮死状態で水分が来るのを待つ。コケが大きくならないことは、コケがいかに水分を取り入れ、逃がさないかの工夫だ。そんなコケのしたたかさは、生きかたを探っていくと他にも見ることが出来る。それは、次回のお話でしたい。